

## 菊地三郎先生の前半生とその時代(下)

### 【サマリー】

木村 実季

中日文化研究所の創立者である菊地三郎先生の前半生については、それを知る手がかりはわずかであり、ほとんど何も分からない状態だといってもよいでしょう。菊地先生はどのような前半生を過ごされたのでしょうか。また、それはどのような時代だったのでしょうか。本稿は、菊地先生の人格形成の背景となった時代状況を概観し、そこから人物理解のヒントを掴もうとする試みです。大正から昭和にかけての“時代”と“社会”に触れつつ、菊地先生が自らの思想信条とした「愛我・愛国・愛民」の由来を探ってみました。

本稿の(上)では、大正期の自由主義的・社会主義的な時代思潮が菊地先生の思想的背景にあること、とりわけ、菊地先生が幸徳秋水・大杉栄の思想的系譜の中に位置していることについて述べ、(下)では、菊地先生が二〇歳の時に上海で体験した“植民地アジア”との出会いが、菊地先生の後半生に与えた影響について述べています。